

基本方針
2-1

地域福祉に対する意識と理解を高めます

【現状と課題】

地域福祉を進めるためには、地域の主役である住民が地域福祉の意義と必要性を理解し、意識することが重要です。本計画策定のために実施した市民意識調査結果から、地域住民の協力のために必要なこととして約8割の方々が、「日頃から住民相互のつながりをもつように心がけること」と回答しています。地域福祉の充実には、普段からの地域のつながりが重要であるとの意識が定着していることがうかがえます。

今後も、地域福祉の意識や理解を進めるために、地域福祉推進組織の諸活動や効果的なPRを通して啓発を行っていくことが必要です。

また、福祉教育についても他の事業との連携を図りながら、継続して行っていくことが必要となっています。

市民の声（地域福祉懇談会、福祉団体懇談会などで出された意見）

- ・認知症に対する理解がもっと必要。
- ・障がい者との交流の場づくりが必要。
- ・地域福祉への関心をもっと高めたい。
- ・行政の役割、社会の仕組みを市民が理解することも必要。



(1) 基本施策 地域福祉の意識を高める啓発運動の充実

【みんなで目指す方向】

「広報ふくろい」「社協ふくろい」「ぼらんていあ通信」などの広報紙をはじめ、ホームページや報道機関への情報提供などを通じて、複数のメディアを重層的に活用して地域福祉に関する情報を発信します。

地域の皆さんの取り組み

- ① 広報紙やホームページなど、市や社会福祉協議会が発信する情報に関心を持ちましょう。
- ② 事業者や団体も積極的な情報発信に努めましょう。
- ③ 福祉イベントへ積極的に参加し、住民の支え合いの意識を高めましょう。



行政や社会福祉協議会の取り組み

- ① 広報紙、ホームページ、班内回覧の活用による重層的な福祉情報の発信(市)
複数の広報手段を活用して、広範な市民に福祉の情報を伝える取り組み。
- ② 地域福祉推進組織への積極的な情報提供(市)
地域で活動している地域福祉推進組織へ積極的に情報提供を行い、地縁のネットワークを通じて福祉に関する理解を深める取り組み。
- ③ 社会福祉大会の開催(社協)
「健康で安心して暮らすことのできる福祉のまち」の実現のため、積極的な地域福祉活動が展開されるよう啓発するとともに、社会福祉推進の功績者を表彰する取り組み。
- ④ ふれあい広場の開催(社協)
障がい者、高齢者、青少年をはじめ、市民が集い、競技やイベントを通して交流する中で、相互理解を深め、福祉のまちづくりを推進する取り組み。
- ⑤ 福祉チャリティバザーの開催(社協)
市民総参加による一品寄付運動を展開し、福祉の輪をひろげ、福祉活動の充実を図る取り組み。

参考とする指標	現状値	現状値 捕捉年度	目標値(H32)
社会福祉大会来場者数	530人	H26	550人
ふれあい広場参加団体数	38団体	H27	40団体
福祉チャリティバザー寄贈物品数	11,179個	H27	14,000個

(2) 基本施策 子どもの福祉教育の充実

【みんなで目指す方向】

未来を担う子どもたちに地域福祉の重要性を伝え、将来の地域の担い手としての自覚を促すため、小さな頃からの福祉教育を充実させていきます。また、市民意識調査の結果からも10代の回答者にボランティア意識が高いことが示されています。こうした意識をより伸ばしていくためにも、家庭、地域、学校、行政で連携して、子どもたちが福祉教育を実践できる機会を増やしていきます。

地域の皆さんの取り組み

- ① 福祉教育の講師やボランティアとして参加しましょう。
- ② ボランティアの大切さを伝えていきましょう。
- ③ 家族で地域の福祉やボランティア活動に参加しましょう。



行政や社会福祉協議会の取り組み

- ① **福祉教育の推進(社協)**
小・中・高等学校において、福祉体験や講師を派遣するなどの支援を通して「ともに生きる力」を育む取り組み。
- ② **福祉教育実践校助成事業(社協)**
児童・生徒の社会福祉への理解と関心を高めるため、幅広く福祉教育・学習の機会を創出し、児童・生徒を通じて地域社会への福祉意識の啓発を図る取り組み。
- ③ **福祉教育に関する情報・意見交換会の開催(社協)**
福祉教育連絡会を開催し、小・中・高等学校の福祉教育の推進及び充実を図る取り組み。
- ④ **小・中・高ふれあい体験事業(社協)**
小・中学生、高校生を対象にそれぞれの年代に合った地域や人との関わりを持つ講座を開催し、地域福祉教育の推進を目指す取り組み。
- ⑤ **やさしい心啓発事業(社協)**
小学生の福祉・ボランティア体験についての作品を表彰することにより福祉意識を高める取り組み。
- ⑥ **人権同和問題啓発運営事業(市)(再掲)**

参考とする指標	現状値	現状値 捕捉年度	目標値(H32)
小・中・高等学校における福祉教育取り組み回数	57回	H27	70回
小・中・高ふれあい体験事業参加者数	49人	H26	60人
市立図書館の児童向け福祉関係図書冊数	301冊	H26	400冊

(3) 基本施策 福祉に関する生涯学習の充実

【みんなで目指す方向】

高齢者の中には、団塊の世代をはじめ多くの技能や知識・経験を持った方々がいます。現役世代やこうした元気な高齢者に、地域福祉の推進役として活躍できるよう、公民館学級や講座、市民活動団体による協働まちづくりなどを通じた生涯学習の場づくりを進めていきます。

地域の皆さんの取り組み

- ① 福祉の問題を自分や家族の身近な問題として考えましょう。
- ② 講座や学級に積極的に参加し、家族や地域の福祉活動に結び付けましょう。
- ③ 福祉活動に参加する仲間を増やしましょう。
- ④ 福祉教育の講師やボランティアとして参加しましょう。

行政や社会福祉協議会の取り組み

- ① **公民館学級や講座の実施(市)**
公民館学級や講座の中で、ボランティア活動の大切さを学ぶ機会を提供する取り組み。
- ② **協働まちづくり推進事業(市)**
市民ならではのアイデアや行政とは違った視点でのまちづくりの取り組みを公募し、市民と行政が適正な役割分担のもとで事業を進める取り組み。

参考とする指標	現状値	現状値 捕捉年度	目標値(H32)
公民館学級生の総数	3,577人	H26	3,500人



小・中・高ふれあい体験 p. 64



盲導犬についての学習の様子

基本方針
2-2

地域福祉の担い手や団体を育てます

【現状と課題】

地域福祉を推進していくには、地域内で日常的に会話したり、心配ごとを打ち明けられるような活動の担い手が必要です。しかし、高齢化が進み、地域福祉の担い手となる世代が減少しています。地域福祉活動を安定して進めていくためには、担い手の育成が急務です。

本計画策定に向けた市民意識調査の結果からも、日常の困りごとを相談する相手について「お願いできる人がいない」と回答した方が増加していることがうかがわれます。

本市では、小地域活動学習講座を開催するとともに、小地域福祉活動を支援し、その地域活動の拠点となる施設の整備を進めてきました。

今後も、地域福祉の担い手として団塊の世代を取り込みながら、担い手の養成を行っていくことが必要です。

また、現在、地域福祉活動の拠点となっている公民館や公会堂などの活用の幅を広げていくことも必要です。

市民の声（地域福祉懇談会、福祉団体懇談会などで出された意見）

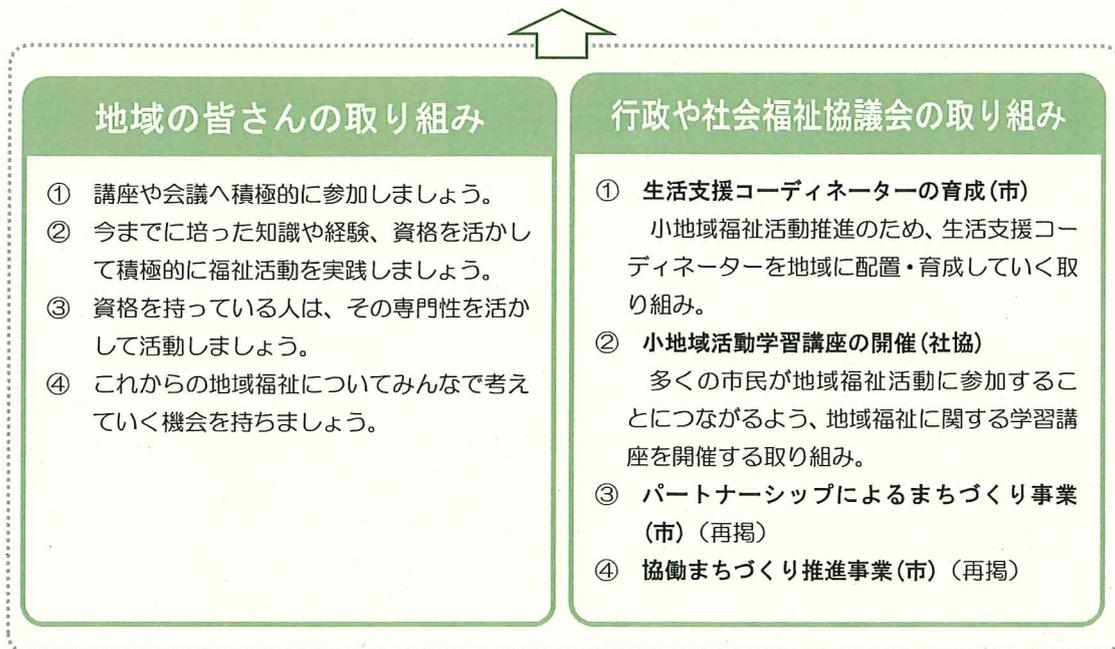
- ・リーダーシップがとれる高齢者の育成が必要。
- ・福祉関係団体の会員が減少している。
- ・福祉関係団体やボランティアの人材確保が大きな課題となっている。



(1) 基本施策 地域福祉活動の担い手・団体の育成

【みんなで目指す方向】

継続的に地域福祉活動を推進するためには、地域福祉の必要性を認識した担い手が必要です。また、将来的な公民館のコミュニティセンター化に向けて、地域全体の福祉ニーズを考えることができる人材の育成も求められます。地域課題を、住民自らの手で解決しようとする先進的な事例をもとに、こうした地域福祉の担い手を育成していきます。



参考とする指標	現状値	現状値 捕捉年度	目標値(H32)
小地域活動学習講座受講者数	28人	H26	30人
地域主体による新たなまちづくり事業(コミュニティ事業)に取り組んだ数	新規	—	24カ所

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章
基本目標1

第5章
基本目標2

第5章
基本目標3

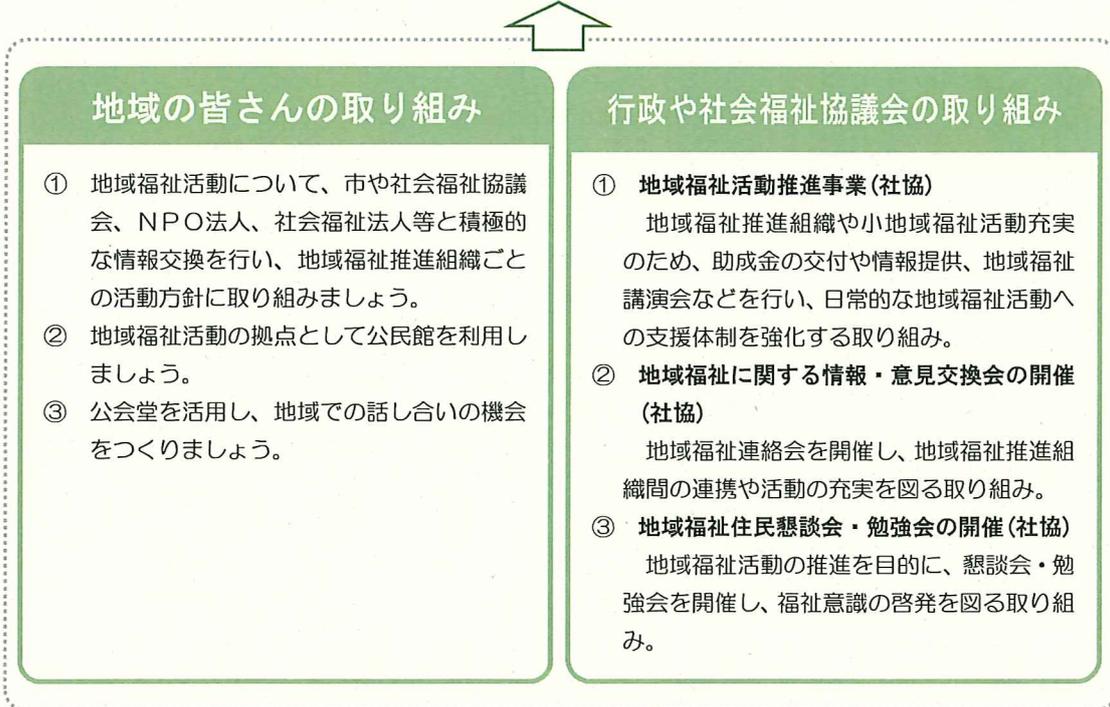
第6章

参考資料

(2) 基本施策 地域福祉推進組織の活性化

【みんなで目指す方向】

各地区の地域福祉推進組織は、自治会をはじめ、民生委員・児童委員、ボランティアなど各種団体の代表者のほか、自治会から選出された福祉委員などが主な構成員となって活動がされています。地域で活動する地域福祉推進組織の継続的な活動を支援するとともに、会議や研修会を通じたネットワークを構築し、NPO法人や社会福祉法人など他の福祉団体との連携を深めていきます。



袋井市社会福祉協議会



参考とする指標	現状値	現状値 捕捉年度	目標値(H32)
地域福祉住民懇談会・勉強会開催回数	28回	H26	28回
NPO 団体等と地域福祉推進組織が連携して実施した事業数	新規	—	10カ所



小地域活動学習講座 p. 67



傾聴ボランティア養成講座



ファシリテーション講座



地域福祉住民懇談会の様子 p. 68



基本方針
2-3

ボランティア活動を推進します

【現状と課題】

本計画策定のための市民意識調査結果から、社会福祉に関わるボランティア活動への参加意向について見ると、平成22年度調査と比べて「参加したい」という回答の割合が減り、「参加したくない」という回答の割合が増えています。

また、ボランティアの参加条件としては「自分にあった時間・内容」であること、「仕事や特技を活かせる」ことなどが多く挙げられていることから、活動分野や参加の度合いについて、多様な選択肢の提供を行い、「できること・やりたいこと」と「ボランティア」のマッチングの工夫が必要となっています。

市民の声（地域福祉懇談会、福祉団体懇談会などで出された意見）

- 気楽にやれるボランティア活動があればいい。
- 高齢者向けの社会貢献活動があればいい。
- 子育て世代のボランティアが少ない。
- 子どもと一緒にできるボランティア活動があるといい。

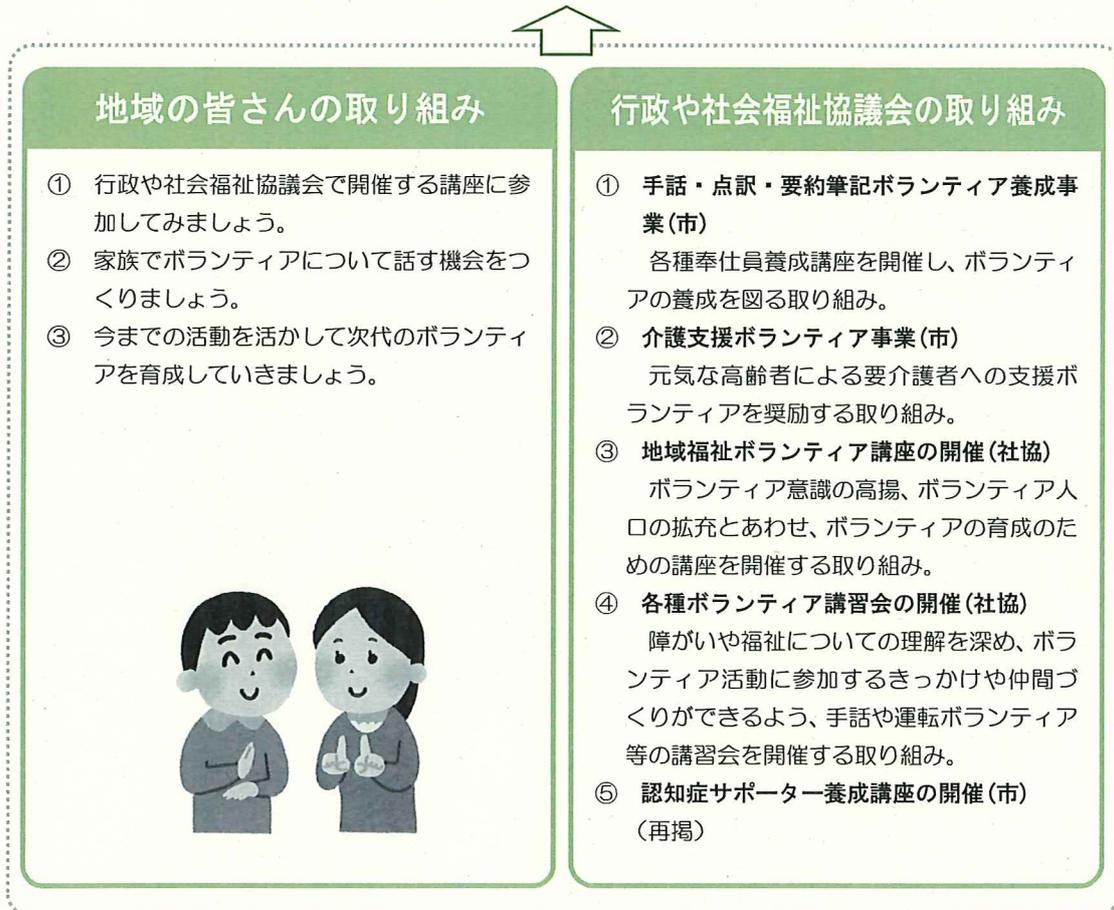


(1) 基本施策 ボランティアの育成

【みんなで目指す方向】

市や社会福祉協議会では、様々な講座や教室を開催してボランティア活動を担う人材の育成を進めます。

社会福祉協議会においては、各地域でのボランティアや団体をマッチングさせるコーディネート機能を強化し、よりきめ細かな運用につなげます。



参考とする指標	現状値	現状値 捕捉年度	目標値(H32)
手話・点訳・要約筆記奉仕員養成講座受講者数	14人	H26	15人
地域福祉ボランティア講座受講者数	26人	H26	30人
手話講習会受講者数	29人	H26	30人
運転ボランティア講習会受講者数	3人	H26	30人

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章
基本目標1

第5章
基本目標2

第5章
基本目標3

第6章

参考資料

(2) 基本施策 ボランティア活動の促進

【みんなで目指す方向】

市や社会福祉協議会、NPO法人やボランティア組織など様々な団体が、ボランティアの養成を行っています。こうした養成講座などの修了生が実際にその技能を活かして活躍できるような場や機会を増やしていきます。また、元気な高齢者や小・中学生、高校生など若い世代が積極的にボランティアに参加できるように支援をしていきます。

現在、ボランティア活動に取り組んでいる方の支援とともに、今後ボランティアとして活動する意欲のある方が、その希望に沿ったボランティア活動に参加できるような支援も行っていきます。

地域の皆さんの取り組み

- ① ボランティア活動の情報に関心を持ち、活動に参加してみましょう。
- ② 地域のボランティアグループを結成するなど、積極的な活動を行いましょう。
- ③ 各種講座や研修に参加した後は、その知識を活動に活かしましょう。
- ④ 今までに培った知識や経験、資格を活かして活動に参加しましょう。
- ⑤ いろいろな世代が参加できる活動をしていきましょう。



行政や社会福祉協議会の取り組み

- ① **ボランティアセンター活性化事業(社協)**
ボランティアセンターがより多くの市民に活用され、ボランティア活動が連携・推進されるよう機能の充実を図る取り組み。
- ② **ボランティア相談の実施(社協)**
ボランティア活動に興味のある方や活動について悩みがある方、またはボランティアを必要としている方の相談に応じる取り組み。
- ③ **ボランティア登録制度の推進(社協)**
ボランティアの把握と増加を図るとともに、ボランティア活動保険への加入を促進する取り組み。
- ④ **スマイルボランティアポイント奨励事業(社協)**
ボランティアポイント制度を設けて、ボランティア活動の推進を促すとともに、ポイントに対する顕彰を行う取り組み。
- ⑤ **ボランティア団体支援事業(社協)**
ボランティア団体の活性化を図るため、連絡会の開催や必要な支援を行う取り組み。
- ⑥ **介護支援ボランティア事業(市)(再掲)**

参考とする指標	現状値	現状値 捕捉年度	目標値(H32)
ボランティア連絡協議会加盟団体数	10 団体	H27	15 団体
ボランティアセンター利用人数	1,152 人	H27 (見込)	1,800 人
介護支援ボランティア登録人数	256 人	H26	330 人
ボランティア登録者数	1,727 人	H26	2,200 人



ボランティア団体の活動の一例

読み聞かせグループ「ゆずり葉」は、お年寄りの皆さんに絵本や紙芝居、歌、手遊び等を楽しんでもらうために、市内の老人福祉施設を定期的に訪問しています。また、老人クラブや地域のサロンへ出張しての読み聞かせも行っています。



各種ボランティア講習会 p. 71



運転ボランティア講習会

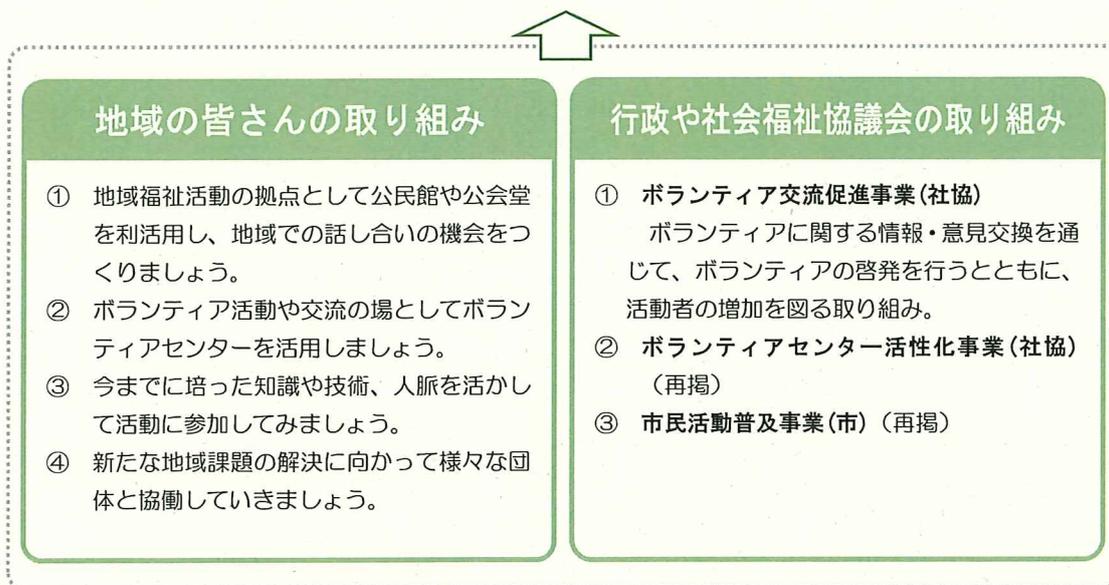


手話講習会

(3) 基本施策 ボランティアネットワークの推進

【みんなで目指す方向】

いろいろな講座や教室で育成されたボランティアの方々を、地域のボランティア活動へつなげていきます。また、個人のボランティアと地域福祉推進組織、地域福祉関連団体（社会福祉法人やNPO法人）などと交流や情報交換することにより、幅広いボランティア活動となるようネットワークの輪を広げていきます。



参考とする指標	現状値	現状値 捕捉年度	目標値(H32)
ボランティアセンター利用人数(再掲)	1,152人	H27 (見込)	1,800人



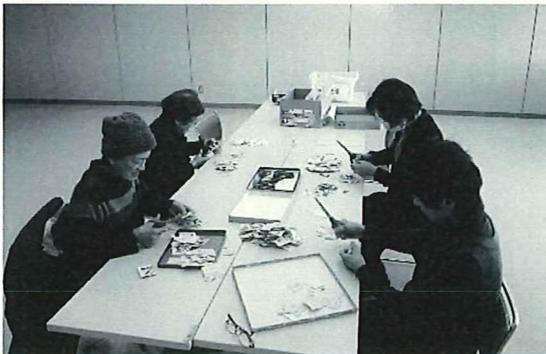
ボランティア交流促進事業



福祉フェスタの様子



ボランティアセンター活性化事業の様子



ボランティアセンターでの切手整理ボランティアの活動の様子



総合健康センター内にあるボランティアセンター